

十一年の誤と見、會要及び冊府元龜繼襲篇の十年とせるは「十」の下に「一」字を脱したるものと見得べきを以てなり。

阿睨に繼ぎて懷信可汗骨咄祿の位に上りしことは上に述べたるが如し、此の可汗は永貞元年〔二二九〕(八〇五年)に死し、唐は此の年〔二三〇〕其の後嗣に對し、冊命使を遣し、こと新唐書回鶻傳、唐會要、冊府元龜封冊篇及び同書繼襲篇等に見ゆ、たゞ此の新たに立てる可汗の本名及び血脈に就きては明かならず、其の徽號も新唐書回鶻傳には滕〔通鑑作騰〕里野合俱錄毗伽可汗と記し、冊府元龜には愛登里邏汨德沒〔密〕施俱錄毗伽可汗とせり、舊唐書廻紇傳には此の可汗のことは全く見えず、貞元十一年懷信可汗を冊命したる記事に續きて、直に元和四年諒德曷利祿沒弭施合密毘伽可汗が、使を唐に遣したることを記せり、此の徽號は次に述ぶべき保義可汗の號を少しく誤りて記したるものに外ならざれば、懷信可汗と保義可汗との間には、他の可汗の存在を記さざるものなりとす、然れ共此の如きは舊唐書の遺脱に歸す可く、之を以て上に引ける諸書の記載を疑ふ可きにはあらず、俱錄毗伽可汗の死は冊府元龜封冊篇によれば元和三年〔八〇八年〕五月にして、新唐書回鶻傳にも、元和三年回鶻の使來りて威安公主の喪を告げたることを述べたる續きに「無幾可汗亦死」と記せり、舊唐書は此の可汗の名を記さざること前述の如くなるが、然も其の本紀元和三年五月の條には「丙午正衙冊九姓廻紇可汗、爲登囉里泊密施合毗伽保義可汗」と記したれば、懷信可汗の次に俱錄毗伽可汗の存在を認むる以上は、此の可汗の死が、又元和三年に在りたることを記せるに外ならずと見ざる可らず、通鑑の記する所も亦同一なり、然るに怪しむ可きは、唐會要には此等の諸書と異り、

元和「六年廻鶻可汗〔俱錄毗伽可汗を指す〕」卒、遣使堀野居葛勒將軍來告喪、七年正月冊命可汗、爲軍登里邏骨德密施合